

(参考様式2) 社会資本総合整備計画 事後評価書

平成30年3月23日

計画の名称	24 高石市における健康で安全安心で災害に強い街づくり(防災・安全)	交付対象	大阪府高石市
計画の期間	平成23年度～平成27年度(5年間)		
計画の目標	近い将来に発生が危惧されている南海トラフ地震や地震に伴う津波災害に備え、災害にも強く安全で安心快適な道路ネットワークの構築・多数の市民の避難に対応した防災関連施設を整備する。また、通学路交通安全プログラムに基づき通学路における交通安全対策を行い、児童が安心して通学できる歩行空間を確保する。さらに、今後老朽化する橋梁の増大に対応するため、橋梁長寿命化修繕計画に基づき橋梁の修繕を行い、常時より市民が安全に通行できる道路環境の実現を目指す。		

計画の成果目標(定量的指標)

- ・地域防災計画により位置づけられた主要防災道路の維持保全・防災機能の強化を行い、災害時には円滑に避難できるようにする。
- ・防災関連施設を整備し、多数の市民の避難に対応する。
- ・安全で快適な歩行空間である幅員2.5m以上の歩道(DID地区内とし、自転車歩行者道を含む)の市道整備延長を1.5倍にする。
- ・安全・安心・快適に移動できる歩行空間の確保を目的とした道路の歩道・自転車道整備等により、歩行者の事故件数を削減する。
- ・橋梁長寿命化修繕計画に基づく橋梁の修繕を行い、安全・安心な交通環境を確保する。

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			備考	
	当初現況値 (H23当初)	中間目標値 (H25末)	最終目標値 (H27末)		
①防災機能を強化した主要防災道路増加延長 ②市内避難設備数の増加数 ③市内DID地区におけるW=2.5m以上の歩道の総延長の増加率					
④安全快適に移動できる歩行空間が確保されたことによる歩行者の事故件数の削減率 ⑤高石市橋梁長寿命化修繕計画に基づく修繕実施率					
①防災機能を強化した主要防災道路増加延長	0km	0.5km	3.0km		
②市内避難設備数の増加数	0	1	2		
③市内DID地区におけるW=2.5m以上の歩道の総延長の増加率 【2.5m以上の歩道整備延長+2.5m以上整備予定延長/2.5m以上の歩道整備延長】	100%	130%	150%		
④安全快適に移動できる歩行空間が確保されたことによる歩行者の事故件数の削減率 【平成22年度の歩行者の事故件数×95%】(資料:高石警察署)	100%	98%	95%		
⑤高石市橋梁長寿命化修繕計画に基づく修繕実施率 橋梁の修繕実施率(%)=橋梁修繕工事を実施した橋梁の数/橋梁修繕計画に基づく修繕が必要な橋梁の数	0%	0%	21%		
全体事業費	合計 (A+B+C) 12,078百万円 12,987百万円	A 12,033百万円 12,965百万円	B 0百万円 -	C 45百万円 22百万円	効果促進事業費の割合 C/(A+B+C) 0.4% 0.2%

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
高石市にて実施	平成29年度
	公表の方法
	高石市ホームページにて公表

1. 交付対象事業の進捗状況

A1 基幹事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	道路種別	省略工種	要素となる事業名(事業箇所)	事業内容(延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	備考
											H23	H24	H25	H26	H27		
24-A-1	街路	一般	高石市	直接	高石市	S街路	改築	(市)南海中央線(加茂地区)	バイパス L=0.53km L=0.46km	高石市						3,215 4,017	P32へ移行
24-A-2	街路	一般	高石市	直接	高石市	S街路	改築	(市)南海中央線(東羽衣地区)	バイパス L=0.64km	高石市						4,900 5,045	
24-A-3	街路	一般	高石市	直接	高石市	S街路	改築	(市)新村北線	バイパス L=0.40km	高石市						1,980 2,025	P32へ移行
24-A-4	街路	一般	高石市	直接	高石市	市町村道	改築	(市)高砂1号線	軟弱地盤対策 L=2.46km L=2.00km	高石市						221 236	
24-A-6	道路	一般	高石市	直接	高石市	市町村道	交安	(市)小高石筋	歩道拡幅 L=0.19km	高石市						14 15	
24-A-7	都市防災	一般	高石市	直接	高石市			都市防災総合推進事業(地区公共施設整備)	自家発電施設(150KVA)(防災体育館)	高石市						40 15	
24-A-8	都市防災	一般	高石市	直接	高石市			都市防災総合推進事業(防災まちづくり拠点施設整備)	津波避難タワー	高石市						32 22	
24-A-10	公園	一般	高石市	直接	高石市			都市公園事業(鴨公園)	施設整備(防災体育館、園路、駐車場等) 5×2ha	高石市						1,516 1,505	
24-A-11	道路	一般	高石市	直接	高石市	市町村道	修繕	小高石筋小高石橋他2橋	橋梁修繕・耐震補強	高石市						16 16	
24-A-12	道路	一般	高石市	直接	高石市	市町村道	交安	(市)南海中央線(綾園地区)	自転車道整備 0.9km	高石市						59 59	
24-A-13	道路	一般	高石市	直接	高石市	市町村道	修繕	綾井筋綾園9号橋	橋梁修繕	高石市						2 2	
24-A-14	道路	一般	高石市	直接	高石市	市町村道	修繕	西取石302号線西取石2号橋	橋梁修繕	高石市						2 2	
24-A-15	道路	一般	高石市	直接	高石市	市町村道	修繕	新村北線新北新橋	橋梁修繕	高石市						3 2	
24-A-16	道路	一般	高石市	直接	高石市	市町村道	修繕	新村北線新御蔵橋	橋梁修繕	高石市						2 2	
24-A-17	道路	一般	高石市	直接	高石市	市町村道	修繕	羽衣406号線新仇浪橋	橋梁修繕	高石市						2 2	
24-A-18	道路	一般	高石市	直接	高石市	市町村道	交安	今川遊歩道	歩道設置 L=0.20km L=0.00km	高石市						30 0	
											合計	12,033 12,965					

B 関連社会資本整備事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容(延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	備考
										H23	H24	H25	H26	H27		
											合計					

C 効果促進事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	備考
										H23	H24	H25	H26	H27		
24-C-5	計画・調査	一般	高石市	直接	高石市	計画策定	高石市内道路橋修繕計画策定事業	橋梁長寿命化修繕計画の策定 37橋	高石市						6 6	
24-C-6	調査・検討	一般	高石市	直接	高石市	調査・検討	防災関連情報促進事業	防災関連情報の策定	高石市						39 16	
											合計	45 22				

番号 一体的に実施することにより期待される効果

24-C-5 橋梁長寿命化計画を策定し、計画的な補修を行うことにより、道路利用者の信頼性を向上させ安心安全な道路利用を図る。

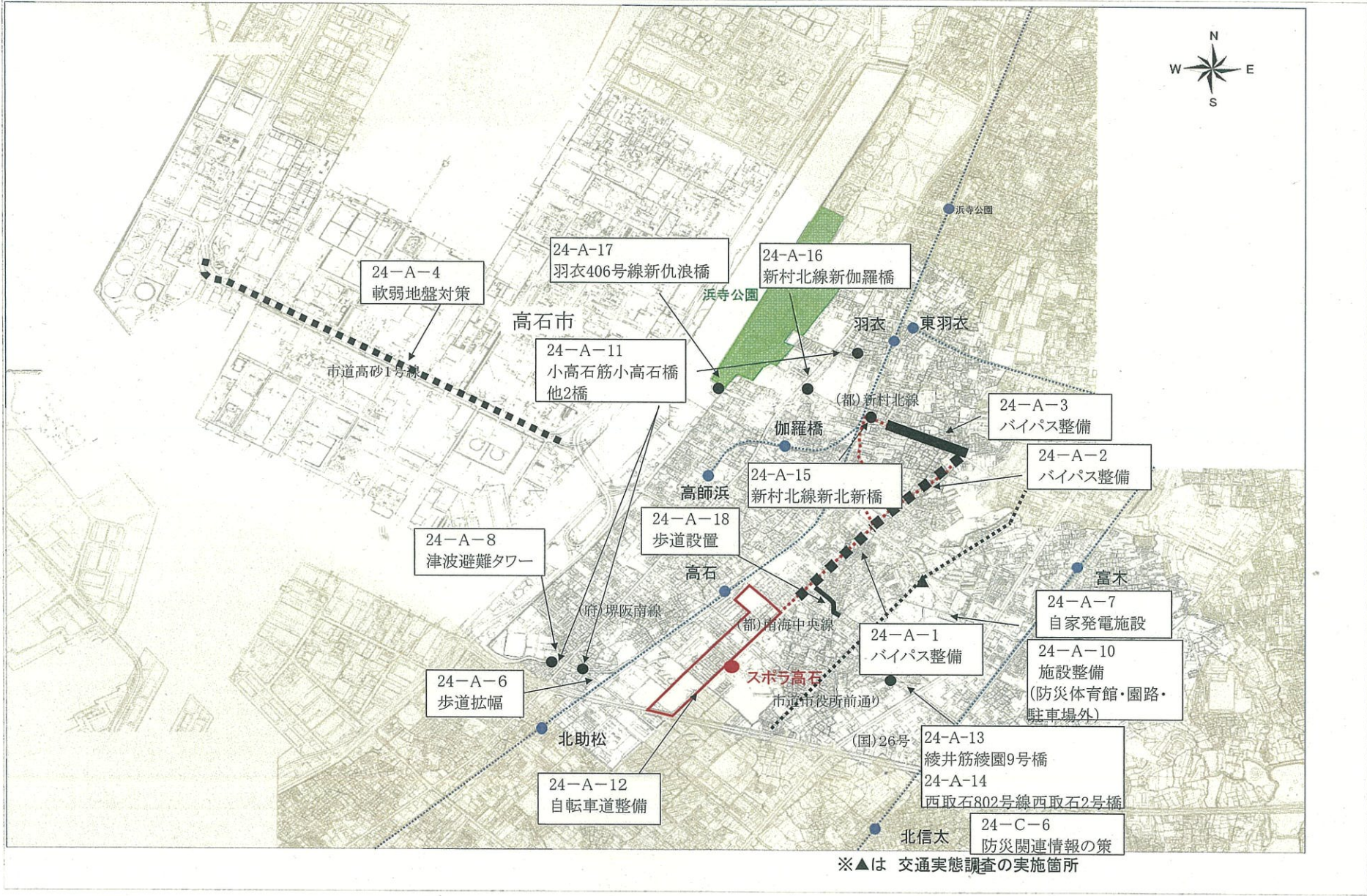
24-C-6 基幹事業にて構築する災害に強く安全安心快適な道路ネットワークに、標高データ等をあわせ、防災関連情報を策定することで、災害に強い街づくりを推進する。

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況						
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		<ul style="list-style-type: none"> ・新たな街路の供用や現道幅員構成の見直し等により、地震・津波時の避難路としてより迅速な避難が見込め、市民の安全確保が図れるようになった。 ・津波災害時の本市は、東側への水平避難を原則としています。時間的猶予や要支援等の理由により、水平避難ができなかった地域住民は、垂直避難を余儀なくされることから、津波浸水深想定より高く多くの住民を収容できる津波避難タワーの建設により、日頃から地域住民の安全安心を確保することができるようになった。 ・市の防災拠点である市役所庁舎や広域避難地である鴨公園とを連携する総合体育館を整備することにより、防災の中心位置と位置づけられ、発災直後から避難して来る市民の安全確保することはもとより、要援護者等の一時的な避難所、それ以降については救護所や救護物資の集配拠点・ボランティアセンター等、災害支援の拠点としての活用が可能となった。また、館内照明等に使用する大型自家発電機も併せて整備することで、ライフラインが復旧するまでの対策が可能となった。 ・橋梁長寿命化修繕計画に基づく橋梁の補修を行い、安全・安心な交通環境を確保することが可能となった。 				
II 定量的指標の達成状況	指標①防災機能を強化した主要防災道路増加延長	最終目標値	3.0km	目標値と実績値に差が出た要因	<ul style="list-style-type: none"> ・高砂1号線は、日本有数の石油コンビナート地帯を形成する臨海埋立部を縦断する道路である。南海トラフ巨大地震などの災害の際、内陸部へ向かう避難路及び災害復旧時の幹となるのルートとしたため、差が生じた。 ・南海中央線は、他事業との調整により、事業スケジュールの見直しが必要となり、未整備区間を次期計画へ移行した。 	
		最終実績値	2.5km			
	指標②市内避難設備数の増加数	最終目標値	2	目標値と実績値に差が出た要因		目標値達成
		最終実績値	2			
指標③市内DID地区におけるV=2.5m以上の歩道の総延長の増加率	最終目標値	150%	目標値と実績値に差が出た要因	都市計画道路南海中央線の整備において、用地買収の進捗の遅れ等により、事業スケジュールの見直しが必要となり、未整備区間を次期計画へ移行した。		
	最終実績値	129%				
指標④安全快適に移動できる歩行空間が確保されたことによる歩行者の事故件数の削減率	最終目標値	95%	目標値と実績値に差が出た要因	目標値達成		
	最終実績値	95%				
指標⑤高石市橋梁長寿命化計画に基づく修繕実施率	最終目標値	21%	目標値と実績値に差が出た要因	目標値達成		
	最終実績値	21%				
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)	<ul style="list-style-type: none"> ・安全快適に移動できる歩行空間を確保したことにより、市民がウォーキングすることで健康づくりの習慣化と“元気”のつながりの輪を広げることを目的としたウォーキングイベントである毎日が“元気”健幸ウォーキングを開催することが可能となったことで多くの市民に運動習慣が身についたことに加え、運動を通じたコミュニティの創出に効果があった。 ・総合体育館の2階部分には、ウォーキングコースを整備しており、天候や季節を問わず市民が快適に健康づくりを行えるようになった。 ・総合体育館を整備したことで市民のための運動施設が確保できたことにより、健幸ウォーキング事業等が活発になることで、市民の健康維持・増進につながり医療費の抑制にも効果を発揮した。 					
3. 特記事項（今後の方針等）						
<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、近い将来に発生が危惧されている南海トラフ地震や地震に伴う津波災害に備え、高石市地域防災計画に基づきハード整備を進めるなかで、災害にも強く安全で安心快適な道路ネットワークの構築を行う。 ・通学路交通安全プログラムに基づき継続的に通学路の安全を確保するため、合同点検を継続するとともに、対策実施後の効果把握も行き、対策の改善・充実をはかる。これらの取組をPDCAサイクルとして繰り返し実施し、通学路の安全性の向上を図っていく。 ・歩行者や自転車がかつ快適に通行できる歩行及び自転車通行空間を形成し、その上で自転車交通ルールの徹底、マナーの向上を図り、特に子供や高齢者に対する安心・安全な道路環境の確保のため、南海中央線の早期完了を目指し、事業進捗に努めていく。なお、南海中央線東羽衣地区が完成した際には、新科北線、芦田川ウォーキングロードと連結した周回コースのウォーキングロードの確保が可能となることで市民が安心・安全にウォーキングを行うことができる環境が整うことになる。 ・道路橋梁については、橋梁長寿命化修繕計画に基づき計画的に橋梁の修繕を行い、市民が安全に通行できる道路環境の実現を目指す。 						

(参考様式3) (参考図面)

計画の名称	24 高石市における健康で安全安心で災害に強い街づくり(防災・安全)		
計画の期間	平成23年度 ~ 平成27年度 (5年間)	交付対象	大阪府高石市



※▲は 交通実態調査の実施箇所